

## 魚類養殖指導 ヤイトハタ

多和田 真 周

### 1. 目的

八重山支場で生産された稚魚の安定輸送と小割生け簀放養後の管理指導

### 2. 対象

養殖グループ

### 3. 協力機関

水産試験場・水産振興課

### 4. 経過

平成10年度第1回目のヤイトハタ種苗配布は7月1日～2日に本部新港で行われた。今回は日本栽培漁業協会・水産試験場が共同でカンパチ稚魚を日裁協八重山事業場から沖縄本島に輸送するため、本部漁協より活魚船をチャーターし、そのついでにヤイトハタ稚魚を輸送したものである。

配布先は浦添・宜野湾漁協13千尾・羽地漁協塩屋グループ4千尾・今帰仁漁協2千尾・与那城漁協2千尾の合計21千尾である。活魚槽の容積に対して収容尾数が少ないことが斃死数も少なく稚魚の活力も良好であった。

第2回目は8月11日に水産試験場の図南丸で水産試験場八重山支場からヤイトハタ稚魚と日本栽培漁業協会八重山事業からスジアラ稚魚を海上輸送した。糸満漁港には8月12日に入港し直ちに計数班と運搬班に分かれて配布作業を開始した。配布先と配布順序・配布数量はつぎのとおりである。

①渡嘉敷漁協：9千尾、②伊江漁協：渡久地グループ2名分2千尾、③座間味漁協：4千尾、

④与那城漁協：2千尾、⑤伊江漁協：玉城正雄2千尾、⑥糸満漁協：金城猛グループ4千尾、⑦羽地漁協運天原：島袋久成10千尾、⑧浦添・宜野湾：横田・花城6,5千尾、⑨伊江漁協：島袋グループ6千尾、⑩浦添・宜野湾：与那覇2千尾、⑪羽地漁協：島袋7千尾、⑫糸満漁協：琉球国際7千尾の順にそれぞれ計数後配布された。

海上輸送については順調であったが水試八重山支場から石垣港までの陸上輸送中酸欠事故が生じたことにより、要望数の9割の配布数量となった。

第1回輸送分の飼育経過については今帰仁漁協・羽地漁協塩屋グループは高水温の影響があり生簀収容後1カ月間で7～8割が斃死、水温下降時期の10月～11月になると安定してきた。浦添・宜野湾漁協グループは6名で13,000尾（1人当たり配布尾数1,500～2,500尾）を輸送、生簀収容後1ヶ月以内に2割前後斃死、その後は順調に推移している。与那城漁協（浦添）は2,000尾は収容後輸送のストレスにより1割程度歩減りがあったがその後は斃死なし、しかし網目のやや大きめな生け簀網を使用して網替えしたため、網目から稚魚がぬけだしほとんど逃亡した。

第2回輸送分の飼育経過については渡嘉敷漁協（9,000尾）は半数を海上生簀へ、半数を陸上水槽へ収容、しかし、停電事故により陸上水槽分は全滅、海上生簀分は収容後2割程度斃死したもののその後の飼育は順調に推移した。

座間味漁協は糸満漁港から計数後漁船で輸送、生簀収容までの所要時間は約90分であったが

トラブルはなし、飼育後の経過については約1ヶ月後に台風の影響により生簀網が破損、ほとんど逃亡したもののその後釣り等により回収に努めた結果5割程度生残。

伊江漁協渡久地グループは輸送による歩減りは2割程度その後1ヶ月間に斃死は続いたがそれ以降は安定し5割の生残、玉城グループ・島袋グループもほとんど同様である。

羽地漁協運天原島袋グループは輸送中の斃死はないがややスレ気味の稚魚が多かったとのこと、その後は高水温の影響と滑走細菌により多量斃死が続く、10月以降水温の下降と共に飼育は安定する。塩屋島袋グループも同様な経過で生残率は2～3割の状況である。

与那城漁協（新屋）は輸送後に若干の斃死が見られたがその後は斃死もなく順調、約1,900尾を小割生簀2面に分養して飼育中である。

糸満漁協金城猛グループは歩減りはほとんどなく飼育は順調であったが台風の影響により生け簀網を破損ほとんどの稚魚が逃亡、琉球国際は飼育が順調で5,000尾程度生残歩留まりは7割弱である。

浦添・宜野湾漁協：横田・花城グループは輸送中に酸素量の調節に失敗、酸欠により7～8割斃死、残りの200～300尾を飼育中。与那覇グループは輸送による歩減りが若干とその後斃死が10月頃まであり生残率は5割程度である。

ヤイトハタ種苗の量産が2年目となり要望数量も増加傾向を示し配布数も10万尾台となっている。今後の課題は養殖技術の安定化である。今年度の歩減りの要因は大まかに次の3つに分類できる。

- ①輸送中あるいは輸送後スレやストレスによる斃死。
  - ②長期高水温が要因により体力消耗・2次要因的な魚病の発生による稚魚の減耗。
  - ③管理不十分による稚魚の逃亡である。
- ①についてはある程度の減耗は仕方ないとして

輸送中の減耗は酸素の調節方法を正常にすれば問題はない。②はビタミン剤投与等による活力増強、ハダムシ等の早期発見、早期治療の実施。③については管理の徹底を図ることにより歩留まりの向上が考えられる。



本部漁協チャーター船によるヤイトハタ稚魚の輸送  
↑ (本部新港) ↓



伊江島におけるヤイトハタの養殖場